JAHFA
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME

論壇

スモールカーの環境技術

ダイハツ工業株式会社
代表取締役社長
伊奈　功一

世界で大きな流れとなっているハイブリッド車、電気自動車、クリーンディーゼルエンジン車に加えて、エンジン排気量のダウンサイジング等、エコカー技術の競争が激化しています。更に、エコカーの低価格化が進み、低燃費と低価格を両立した商品がお客様に求められています。もともと軽自動車等のコンパクトカーを主力としている当社では、車両価格および車両サイズ面から、ハイブリッド等の技術はすぐには展開が難しく、またエンジン排気量のダウンサイジングも厳しい状況であることから、今後の軽自動車におけるエコカー戦略が生き残りの鍵と考えています。

当社では、登録車の低燃費化、ハイブリッド車の低価格が進み、軽自動車の優位性が相対的に低下する中、日常の足としての軽自動車の原点に帰り、本来の軽自動車の魅力である「低燃費」「低価格」「省資源」に、徹底してこだわり、「第3のエコカー」ミラ イースを投入しました。低燃費化・省資源化については、従来の内燃機関の燃焼改善やメカロス低減、車体の軽量化、空気抵抗・転がり抵抗等の走行抵抗低減に取り組み、2WD全車で、JC08モードでガソリン車トップクラスとなるリッター30kmのハイブリッド車並の燃費を実現し、燃費を40%向上させました。また、

軽自動車「ミラ イース」

徹底したコスト低減活動に取り組んだ結果、８０万円を切る低価格が好評を得て、改めてお客様の「低燃費」「低価格」「省資源」に対する関心の高さを再認識しました。

その後も、各社から従来の内燃機関を更に進化させた低燃費車が続々と投入され、コンパクトカー市場はこの方向での技術革新が飛躍的に進んでいます。ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車のような世界的に優位性を持つ技術の開発だけでなく、全世界で２０２０年以降も主流となる従来の内燃機関での技術開発も非常に大切であり、今後も真剣に取り組んでいきたいと考えています。

一方、世界の自動車市場をけん引する新興国でもエコカーの需要は高まっています。こうした新興国では、一般大衆への自動車の導入期にあたり、特に経済的な自動車が求められています。また、自動車市場とともに産業が発展していく新興国においては、現地の技術や材料、さらには人材を活用して生産できることも重要な課題となります。ミラ イースで採用した「低燃費」「低価格」「省資源」の技術は、新興国のエコカーについても必要不可欠であるとともに、「現地化」を促進する技術開発が必要です。その新興国向けの商品として、本年9月のインドネシア国際モーターショーに小型乗用車「アイラ」を出展しました。「アイラ」は、ミラ イースで培った、ダイハツの低燃費・低価格なクルマづくりのノウハウをベースに、当社の現地法人が主体的に参画した開発体制のもと、インドネシアのニーズを徹底追求し、新たにクルマを購入される方々に満足頂けるアフォーダブルな価格と低燃費を実現した、エントリーユーザー向けのファミリーカーです。同時に、現地法人さらにはインドネシア国内およびASEAN域内の部品サプライヤーの徹底的な調査を進め、現地調達率を最大限に引き上げる事で、低価格化とインドネシア国内産業への貢献を図っています。現地のエコカー政策の施行時期を見据えつつ、「アイラ」は発売に向けた準備の最終段階を迎えています。インドネシアの、インドネシアによる、インドネシアのための車である「アイラ」は、当社の今後の海外事業展開の方向性を示す、重要な戦略車種と位置付けています。

今後ともお客様の求める機能・品質を備えた商品を、お客様に求められる価格で提供するとともに、更にワクワクするスタイルや走り等、「クルマ本来の楽しみ」についても追求していきたいと思います。

日本国内においては、１０年間販売を続けてきた軽オープンカー「コペン」の生産を、本年8月をもって終了致しました。「コペン」の残した「生産累計6万台」という実績は、お客様の高いニーズの表れであると思います。軽自動車市場は各社が新型車を次々と投入する、今まさに日本の自動車市場の中において最も競争の激しい市場です。当社としましては、「低燃費」「低価格」「省資源」である事はもちろん、よりクルマの楽しさを実現する次の商品の投入に向け、尽力いたします。

世界の経済発展、より良い暮らしの実現に自動車の果たす役割は非常に大きく、当社も気概を持って努力を続けてまいります。

インドネシア国際モーターショー出品車「アイラ」